

弘前市の重要文化財

長勝寺

山号は坪山で菅原の津軽家最初の菩提所 既真照立の地である江戸時代初期に徳政の遺物として津軽家の先祖大浦光信の晩年の信大浦城主が亡き父のため享禄元年(1528年)に創設。慶長5年(1600年)代信玄公が弘前城築城とともに現在地に転移したとされている。本堂左手奥五重塔は鎌倉時代のもので、直線に並び、北東面に五重の塔を建て、西面に五重の塔を建て、南には鎌倉時代の梵鐘を置いた。奥の空室は龍宮の五百羅漢の本堂で、津軽家の菩提所として建てられたとされている。

最勝院五重塔

五重塔は、仙塔の形式の一つ、層塔と呼ばれる楼閣形式のうち、五重の屋根を持つものを指す。下から地水火風空の五つの世界を示し、宗教的な宇宙観を表している。

弘前城

弘前城は陸奥国奥州郡弘前にあり、日本の城である。別名鷹岡城、菅岡城。江戸時代に建造された天守や櫓などが現存し、国の重要文化財に指定されている。また城跡は国の史跡に指定されている。江戸時代には津軽氏が居城し弘前藩庁が置かれた。

第五十九銀行本店本館(青森銀記念館)

明治37年(1904)に完成した、第五十九銀行本店の建物。石づくりのまろみに見えるんですが、木で建てられています。中央の入口や正西屋根の突き出た部分などにアーチ状のデザインを用いています。左右対称の美しい見た目ですが、カベの中にかおらと入れてぬりこめたり、土戸を使用する防火構造です。

大町



弘前城



銀行本店本館

木村産業研究所

国の文化審議会は2013年(平成25年)11月、96年の第1作木村産業研究所(弘前市左府町)を建造物の国重要文化財に指定する。菅原田光文部科学大臣が指定した。青森県教育委員会や弘前市教育委員会が設計した建物が重要文化財に指定されるのは今回が初めて、建物の歴史的価値が評価された。



長月勝寺



最勝院五重塔

